

2021

5月号別冊

広報

# 上越

じょうえつ

昭和45年当時の高田市役所

令和3年4月29日

## 上越市市制施行50周年

昭和34年当時の直江津市役所  
(北越出版「アルバム直江津」から転載)



14市町村が一体となった「新たな上越市」の歩み

上越市誕生後、地域発展の歩み

2021	2020	2019	2018	2017	2016	2015	2014	2013	2012	2011	2010	2009	2008	2007	2006	2005	2004	2003	2002	2001	2000	1999																																																	
3	2	令和元 31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	平成17 17	16	15	14	13	12	11	平成11 11																																																
4月	1月	11月	10月	3月	2月	1月	12月	5月	4月	3月	7月	9月	4月	3月	3月	11月	10月	9月	8月	5月	10月	3月	10月	8月																																															
旧師団長官舎、旧今井染物屋リニューアルオープン	高田地区35町内で一斉雪下ろし・排雪を実施	ガス水道局が新庁舎で業務を開始	小林古径記念美術館リニューアルオープン	上越地域消防局、上越消防署が運用を開始【写真⑮】	市新型コロナウイルス感染症対策本部を設置	上越体操場ジムリーナオープン【写真⑮】	上信越自動車道全線4車線化	県立武道館 謙信公園武道館オープン	ライオン像のある館オープン	うみがたりの来館者が100万人を超える	新クリーンセンター開所	現在の高田城址公園内のソフトボール場跡地を芝生公園などにリニューアル	高田まちかど交流館オープン	水族博物館うみがたり開館【写真⑭】	歴史博物館開館	上越三和道路寺・鶴町間開通	高田城本丸へ渡る極楽橋を復元	マリーナ上越完成	埋蔵文化財センター開館	謙信公大橋開通	14市町村による上越地域合併協議会を設置	柿崎川ダム完成	新潟県中越地震が発生 市内で最大震度5強を記録	近隣13町村との合併【写真⑪】	13の地域自治体に地域協議会を設置	小川末明文学館開館	特別市に移行	新潟県中越沖地震が発生 市内で震度6弱を記録	上越市自治基本条例施行	上越総合運動公園テニスコート、春日謙信交流館オープン	福祉交流プラザ全館オープン	トキめき新潟国体開催	市全域で地域自治体制度を施行	五代目市長に村山秀幸氏就任	上越魚沼地域振興快速道路浦川原〜安塚間開通	直江津学びの交流館 直江津図書館開館	日本スキー発祥100周年記念式典開催	高田地区29町内で一斉雪下ろし・排雪を実施	東北地方太平洋沖地震が発生 市内で最大震度4を記録	長野県北部地震が発生 市内で最大震度5強を記録	直江津港が日本海側拠点港(LNG)に選定	板倉区国川で大規模な地すべりが発生	旧大和上越店跡地にイレブンプラザがオープン	旧高田共同ビル跡地に整備された「あすとぴあ高田」内に「ミュゼ雪小町」がオープン	児童養護施設若竹寮を移転新築	高田開府400年祭、記念式典を開催【前頁写真⑫】	北陸新幹線長野〜金沢間開業【写真⑬】	上越妙高駅、えちごトキめき鉄道が開業	都市計画道路「飯門田新田線」開通	釜蓋遺跡公園とガイダンス施設オープン	えちごトキめき鉄道「えちごトキめきリゾート雪月花」運行開始	ドイツ体操連盟と東京オリンピック・パラリンピック競技大会における「事前キャンプ」に関する覚書を締結	現在の高田城址公園内の陸上競技場をリニューアル	オーレンプラザ開館	新クリーンセンター開所	現在の高田城址公園内のソフトボール場跡地を芝生公園などにリニューアル	高田まちかど交流館オープン	水族博物館うみがたり開館【写真⑭】	歴史博物館開館	上越三和道路寺・鶴町間開通	ライオン像のある館オープン	うみがたりの来館者が100万人を超える	県立武道館 謙信公園武道館オープン	上信越自動車道全線4車線化	上越体操場ジムリーナオープン【写真⑮】	市新型コロナウイルス感染症対策本部を設置	上越地域消防局、上越消防署が運用を開始【写真⑮】	小林古径記念美術館リニューアルオープン	ガス水道局が新庁舎で業務を開始	高田地区35町内で一斉雪下ろし・排雪を実施	旧師団長官舎、旧今井染物屋リニューアルオープン



R2.3 上越地域消防局運用開始



R2.1 ジムリーナオープン



H30.6 うみがたりオープン



H27.3 北陸新幹線長野・金沢間開業



H26.7 高田開府400年祭開催



H17.1 近隣13町村と合併



H13.3 市民プラザ全館オープン



H12.4 直江津駅、自由通路竣工

従来からの市街地には大型店の出店が相次ぎました。車社会が本格化する  
と、国道のバイパスや高速道路の開通  
に伴い都市の姿も変わり、郊外型大型  
店が進出し、商圏が広がります。また、  
高度経済成長を背景に直江津港の整備  
が進み、周辺の化学・金属工業が発展  
します。石油危機を経た安定成長期に  
は、次第にシリコンウエハーをはじめ  
とする電子部品などの製造拠点が置か  
れ、今日のIT社会の基盤となる産業  
も盛んになります。

また、首都圏と北陸や関西を結ぶ新  
幹線の整備も、熱烈的な誘致運動を経て  
上越市を経由することが決まり、現在  
の上越妙高駅の誕生につながります。

一方、国内では、経済の実態と不動  
産などの価格がかけ離れたバブル経済  
が平成初期に終わり、戦後初めて経済  
成長が長期にわたり低迷していきま  
す。また、増加を続けた我が国の総人口は、  
平成20年をピークに、予想を超えた少  
子高齢化により減少局面を迎えます。

**未来に向けた新たなまちづくりを、  
14の個性が一体となって**

上越市では、住民や企業の活動範囲  
は、交通基盤の整備などにより一層広  
がりました。近隣町村の多くの住民が

通勤や買い物などのために上越市を訪  
れ、また、そのことが市経済の大きな  
支えになるといふ、相互の関係性は深  
いものとなります。

このような中、国は、住民の考えを  
自治体運営に一層反映できるよう、地  
方への権限や財源の移譲を平成12年度  
から行ってきましたが、国や地方の財  
政状況の悪化もあり、権限などの受け  
皿を強化する市町村合併が全国で進み  
ます。

国や地方の問題は上越市でも同様で  
あり、高齢化などでは一層顕著となっ  
ていました。主要産業の農業や建設業・  
製造業は、時代の変化に大きな影響を  
受け、対応していくことを余儀なくさ  
れます。加えて、多くの町村では、こ  
れらの影響を受けやすい財政状況であ  
ったため、将来、更に厳しくなること  
が避けられない情勢にありました。

このような状況を背景に、上越地域  
14市町村は、それぞれの個性やそれ  
まで個々で積み重ねてきたまちづくり  
の実績を踏まえつつ、長期的な視野に  
立ち、新たなまちづくりの理念や方向  
性を共有し、平成17年1月に合併しま  
した。14市町村は、運命共同体として  
共に歩むとともに、自主自立の精神に  
根差した行政運営を進めることを選  
びました。

# 過去に学び、未来に向かって力強く前進を

——昭和46年4月29日に高田市、直江津市が合併し上越市が誕生してから、今年で50周年を迎えます。これまでの上越市の歩みを振り返って、村山市長は行政の長として、高橋会頭は地域経済界の代表として、どんなことを感じですか。

**村山市長** 年表からは、青年会議所（以下、「JC」）の活動が上越市誕生の先鞭をつけたということを見て取れますが、商工会議所ではなく、なぜJCにそうしたことができたのでしょうか。

**高橋会頭** 私は、JCだからこそできたのだと思っています。要するに、若い人たちの発想ですよね。高田も直江津も人口減少が起きていて、将来に危機感を持った若者が、まずは昭和41年に高田、直江津のJCを合併し、その後6年間で上越市の誕生へとつなげたわけです。

**村山市長** 高田と直江津が合併した昭和46年は高度経済成長の真っただ中で、私はその年に地元を離れ、新潟県庁に勤めました。2年続けて給与が10%も上がったような時代です。経済活動が盛んになり、地元から東京などへ労働力として出て行ったり、

あるいは進学率が上がって、県外の大学へ行く人も増えたりということがあつて、現在の少子高齢化とは異なる、そういう要因での過疎化、人口減少が地域の課題として起きていました。

**高橋会頭** このまま人口が減り続けたら高田も直江津も将来が危ういから、合併して10万人都市を作ろう、一大拠点を作ろう、という情熱が原動力になったわけです。

**村山市長** 当時の人口は高田市が約7万4千人、直江津市が約4万3千人でしたから、まちの規模からすれば高田の方が大きかった。また、高田の歴史は400年だ、直江津は800年だという話もいまだに聞こえてきますが、合併を進めようとしたときに、そういうことが市民の気持ちの中で障壁にならなかったのでしょうか。

**高橋会頭** JCでは合併についての市民アンケートも実施していて、約8割の人は合併に賛成だったそうです。これはJCが精力的に活動した結果なんだろうが、自分たちが発想したことが市民の共感を得たということ、JCの自信につながって

いくんですよ。

私がかつて、当時活動していた先輩たちに「当時のJCには、高い理想を持った人たちがそれほど大勢いたものか」と聞きしたことがありますが。答えは、「そうじゃない」と。一部の人が始まった運動だったけれども、その人たちがみんなに「今までのように直江津、高田といつて、将来があるか」と訴えていったのだそうです。「分かってくれた人とは、徹底的に酒を酌み交わした」とも仰っていました（笑）。

過去を振り返りながら自分の経験の中で歴史を語るのが年配の人で、より理想というか、素晴らしい未来を思い描くことができるのが若い人です。それをミックスしたのが良い社会なのであつて、それをやってのけたのが50年前の合併なんですよ。

**村山市長** 昭和45年9月に第1回の合併協議会が開かれてから、わずか半年ほどで合併しています。普通でしたら業務や制度のすり合わせに3年くらいは必要ですから、いくらJCに情熱があつたとはいえ、それだけではこれだけ短期間で合併は成し得ないと思うんです。

例えば、私が県庁に勤めた最初の課で、年度途中で課長が変わったんですが、新しい課長は高田出身の人で、合併を進めるために助役として直江津市に向かっていた人でした。

つまり、JCが合併に向けて地域の合意を得ていった傍らで、両市の行政も着々と準備を進めていたということだと思えます。

ところで、そうして合併が果たされた後で、それまでの熱が「合併してよかったね」という熱に変わったタイミングはあつたんでしょうか。

**高橋会頭** 植木公さんが市長を退かれた後で、「合併の効果は何でしたか」と尋ねたことがありました。それは2つあつて、1つは10万人都市でなければできなかった上越教育大学の誘致で、もう1つは新幹線だとのお答えでした。

北陸新幹線は、将来確実に大阪まで延伸し、それによって本州に新幹線の環状線ができて上がります。上越妙高駅が新潟県の玄関口となるわけですから、この地の利をいかして、ビジネス、観光、スポーツ、目的は何でもいいですが、上越を立ち寄らなくてはならない場所にしていかなくてははいけません。

——歴史的に見れば、行政という枠組みが出てきた1300年前から頸城郡は一つで、上杉謙信公の治世を経て江戸時代が終わるまで、現在の上越が越後の国の中心でした。それ

が150年前、明治政府によって地方行政が再編されてしまったわけですが。北陸新幹線の軌道も、かつて「表日本」であつた日本海側の往來に重ねることができません。

**村山市長** 歴史を大きく俯瞰したときに、この地域が一つになるという必然性があつて、平成17年に14市町村の合併という形でそれが果たされた。交通の要衝として、今まさにうことができると思えます。

——最後に、これからの時代を担う若い人たちにに向けて、お一人からメッセージをお願いします。

**高橋会頭** これまで先輩方からお聞きした話を思い返し、今こうして50年を振り返って見ると、これだけ先人たちがまちの未来を想い、勇気を持って合併という道を選んできたんだということに、改めて気付かされます。

これは何かというと、先を見通した、先見性というか、将来の姿を描くことができ、その実現のために、やるべきことをやってきたということとですね。

平成の大合併は、昭和の合併に比べて国策としての色が濃いのですが、歴史を辿れば今の上越市のエリアはかつて一つだったということから考えるならば、これからの50年というのは、未来に向かって、合併を推進した当時の人たちが苦勞され

たことを一時でも思い、将来の上越を作っていくエネルギーに変えていかななくてはならないと思います。

昭和の合併が若者の力で成し遂げられたように、これからの時代を創っていく人たちが、自分たちのまちが将来どうあつて欲しいかを思い描き、そのために行動してくれることを期待しています。

**村山市長** いま、歴史観も含めてお話を聞きますと、私が最初に感じた疑問については、合併するにあつて関わった人たちが、とりわけ若い人たちの思いがまとまったことと、その時の勢いというか、強い将来への期待と行動が10万人、12万人の都市を作る大きな力になったんだと納得しました。

根底には、地域を愛する若い人たちが大勢いて、将来を夢見ながら一生懸命に取り組んだということがあり、そうして成し遂げた上越市の誕生が平成の合併へとつながり、結果として歴史に培われてきたこの地域の一体感のようなものを呼び起こすスタートになったのだと思うと、感慨深いものがあります。

これからのまちづくりは、高田も直江津も13区もなく、一度は分かかれ、今再び一緒になったこのまちの将来のことを、次代を担う若い人たちがリードして行って欲しいですね。

——ありがとうございました。



このアイスアリーナでは国体も開かれたんですよ。元々、そういう規格にしようと。拠点化をにらんだ動きですね。

小さい頃にこのリンクでアイスホッケーを始めて、後に国体に出場した人もいます。この施設があればこそですね。

上越商工会議所 会頭  
高橋 信雄 さん

上越市長  
村山 秀幸

【撮影場所】  
リージョンプラザ上越  
アイスアリーナ

上越地域の文化とスポーツの拠点として、高田と直江津の中間に位置する下門前地内に建設され、上越科学館とともに昭和59年10月1日にオープン。アイスアリーナは5月末まで利用できます。

令和3年4月25日発行



①上越市役所木田庁舎 【各区総合事務所】 ②安塚区 ③浦川原区 ④大島区 ⑤牧区 ⑥柿崎区 ⑦大潟区 ⑧頸城区  
⑨吉川区 ⑩中郷区 ⑪板倉区 ⑫清里区 ⑬三和区 ⑭名立区

UD FONT

見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

上越市ホームページアドレス <https://www.city.joetsu.niigata.jp/>

1270 (古紙パルプ配合率70%再生紙を使用)

編集 上越市総務管理部広報対話課  
〒943-8601 新潟県上越市木田1-1-3

有線(JHK) ☎025-526-5111  
☎025-526-5111